

- 新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、多くの市場に甚大な影響を与えました。
- 中でも『コモディティ』は、わたしたちの生活との結びつきが強い資産であり、それぞれの商品特性に応じ、コモディティ価格は大きな影響を受けました。
- 以前に比べ感染拡大にも歯止めが掛かりつつある中、当該レポートでは『コモディティ』自体、そして『コモディティから見た世界経済』についてDWSの見通しをまとめました。



ズバリ！アフターコロナにおけるコモディティ価格に対する見通しは？

⇒コモディティ価格は堅調に推移すると見えています。

コモディティ市場は既にコロナショック前の水準に回復しつつあり、その傾向は今後も続く見えています。設備投資が減少していることから、多くのコモディティの生産量は需要の回復を満たすまでには拡大しないものと見込まれます。世界各国で金融/財政両面からの政策支援がある中、経済活動が完全に再開すればコモディティに対する需要はさらに大きなものとなるでしょう。これらのことから、コモディティの価格は堅調に推移するものと予想しています。



アフターコロナにはどんな種類のコモディティが注目される？

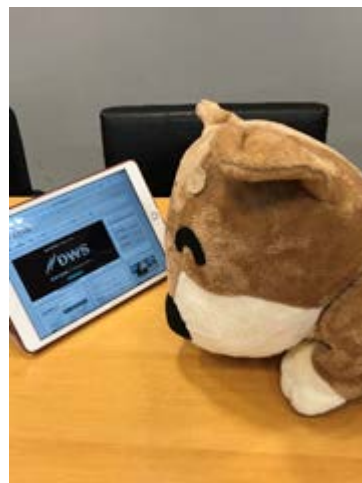
⇒非鉄金属等に注目しています。

製造業の回復は個人消費の回復スピードよりも速く、また金融/財政両面からの支援は、特に製造業セクターを下支えするものと見込まれます。

このような中、非鉄金属、特に『銅』と『ニッケル』に注目しています。

『銅』については今後構築が進む5Gネットワークを支えるファイバー網等に使われるため、需要が高まると見込まれます。

また、『ニッケル』については、次世代自動車の普及につれ、その要となるリチウムイオンバッテリー（電池）に大量に使用されることから、今後更なる価格上昇が期待されます。



次世代高速通信を支えるのは実は『銅』だったんです。



次世代自動車には『ニッケル』等のレアメタルが欠かせません。

出所：各種資料を基にドイチェ・アセット・マネジメント(株)が作成
※データは記載時点のものであり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。
※写真はイメージです。



コモディティ市場から見た世界経済の見通しは？

⇒様々なコモディティが景気回復を示唆しています。

コモディティ市場は商品特性毎に様々な面から景気回復を示唆しています。

＜原油＞

足元の原油価格には回復傾向が見られます。これが原油需要の回復に裏付けされたものである場合には、個人消費の拡大につながると見込まれます。中でもガソリン価格は個人消費と高い相関があると考えられます。



ガソリン需要はレジャー消費（個人消費）のバロメーターとして使用されます。

＜金＞

金価格は世界経済を映し出す鏡ともいえるでしょう。

米国を中心に、各国の景気回復が進む中、実質金利の低さが引き続き金の価格を押し上げる要素となると考えられます。

なお、今後金価格が下落傾向となった場合には、金融当局が想定する水準まで景気回復が進んだサインとも考えられます。その際には、金の価格水準を下方修正する段階にあると判断すべきであると考えます。

『有事の金』という言葉が表すように、市場のリスク回避姿勢が強まる場面では金価格は高騰する傾向にあります。



＜まとめ＞

『コモディティへの投資』という遠い存在と感じられますが、『コモディティそのもの』は、わたしたちの生活に根差した資産であると言えます。

そのため、コモディティの値動きは足元の、そして今後の経済状況を如実に表すものであるとも考えられます。

これからの投資判断において、コモディティの値動きも参考にしてみませんか？

とうもろこし等の農作物はコモディティ市場の中でも高い流動性を有しています。



出所：各種資料を基にドイチェ・アセット・マネジメント株式が作成
※データは記載時点のものであり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。
※写真はイメージです。

アフターコロナにおけるコモディティ見通し

ご留意事項

●投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。したがってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。

また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご購入に際しては、事前に最新の投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面の内容をご確認の上、ご自身で判断して下さい。

●投資信託に係る費用について

【お申込みいただくお客様には以下の費用をご負担いただきます。】

- 購入時に直接ご負担いただく費用・・・購入時手数料 上限3.85%（税抜3.50%）
- 換金時に直接ご負担いただく費用・・・信託財産留保額 上限0.5%
- 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用・・・運用管理費用（信託報酬） 上限2.068%（税抜1.88%）
- その他費用・・・上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。
投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等でご確認下さい。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託の運用による損益は、すべて受益者に帰属します。投資信託は、金融機関の預貯金と異なり、元本及び利息の保証はありません。投資信託は、預金または保険契約ではないため、預金保険及び保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。登録金融機関を通じてご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご購入に際しては、事前に最新の投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面の内容をご確認の上、ご自身で判断して下さい。

なお、当社では投資信託の直接の販売は行っておりませんので、実際のお申込みにあたっては、各投資信託取扱いの販売会社にお問合せ下さい。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第359号
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、
一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会